



2000年10月号 通巻第21号

スカウティング茨城

ボーイスカウト茨城県連盟
広報専門委員会 編集発行
<http://www.d2.dion.ne.jp/~bs18raki/>

5NV無事閉幕!!

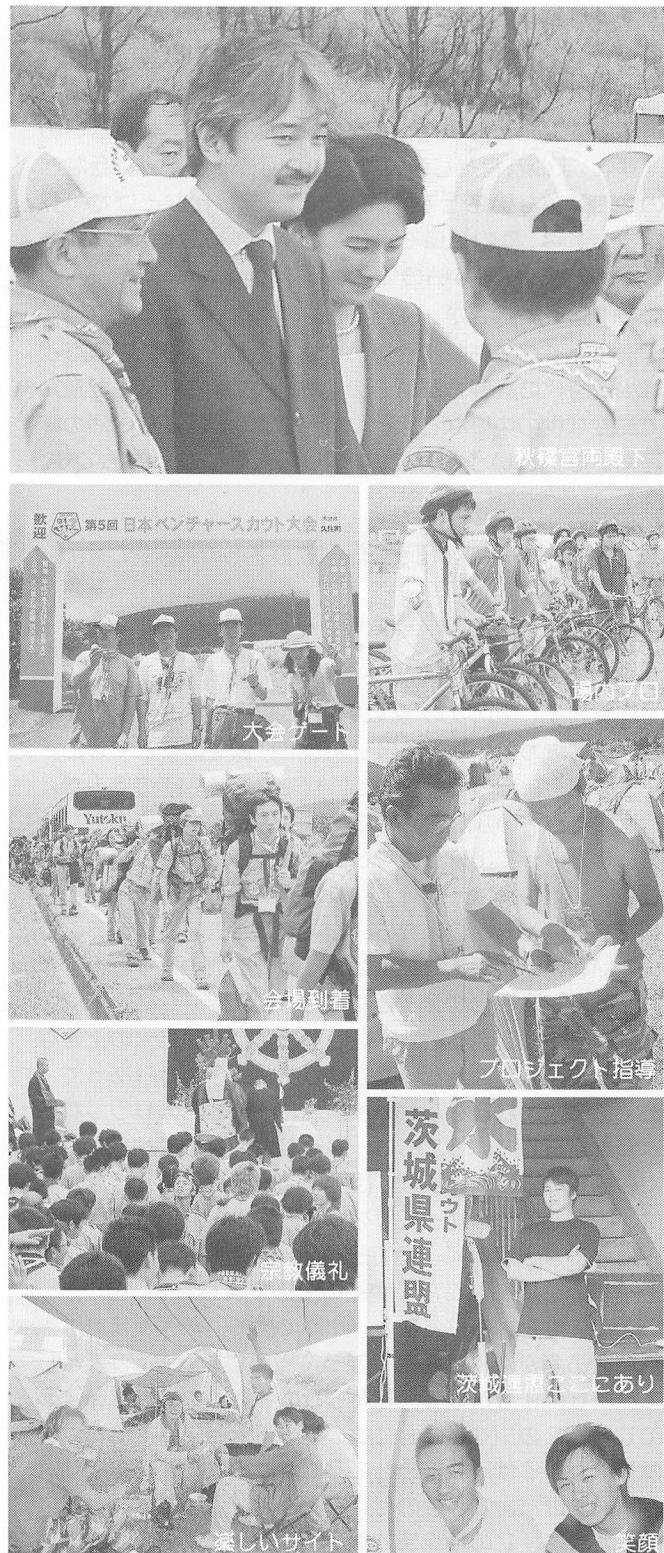
去る7月29日から8月4日までの7日間、九州大分県の久住高原において、第5回ベンチャースカウト大会(第5回日本ベンチャーナイト)が約4000人の参加を得て開催された。茨城からはスカウト63名、指導者16名の計79名が参加した。6年前に同じ会場で開催された第11回日本ジャンボリーは晴天続きだったが、今回は台風6号の影響でずっと曇りと雨。気温も20℃前半でとても過ごしやすかった(茨城は猛暑だったらしいが…。晴れたのは最終日になってからだった。

今回のベンチャーナイトは、久住高原の主会場と九州・沖縄各地の28の活動基地があり、参加スカウトは2人1組となって大会期間の前半・後半のどちらかをいざれかの活動基地のプログラムに参加する。主会場では場内場外全部で29のプログラムがあり、それぞれスカウト自身が自分のプロジェクトに沿って参加していた。ほとんどのプログラムそれに開会式や閉会式までもが、単に「参加するだけ」のものではなく「自ら参加することによって作り上げる」ものとなっており、特に毎夜行われたベンチャーナイトは、企画・計画・運営・出演・演出・効果すべてがスカウトの手により行われていた。開会式・閉会式についても出演者(司会、旗手、宣誓等)は一般公募(オーディション)により選出され運営された。

このように参加したスカウトにとっては、自分が何かの形で関わり、それによって大会が運営されていくということが肌で感じられ、それがより大会を身近なものにかつ盛り上げることに繋がったのだと思う。事実8月5日に会場を後にするスカウトたちの表情は、充実・満足そして参加できた喜びに溢れていた。一方、参加した指導者は…と言うと、大会規模がジャンボリーの8分の1程度なので、大会全体を見渡すことができ、それぞれが自分の役務の位置づけをしっかりと把握する事ができて、より責任をもつて任務を全うする事ができたと思われる。もちろん、指導者自身が自ら進んで楽しんでいたことは言うまでもないが…。

このように、受動的なスカウト・リーダーが多いと言われる中、この大会はそれを払拭しあつスカウト・リーダーのパワーを感じて余るものとなった。是非この気持ち・心をこれから県連の発展に活かしていきたいものである。

弥栄



●茨城県連盟創立50周年記念特集 茨城県連盟の諸先輩のことば～第1回～

第2代副連盟長

今宮千勝

スカウト諸君に

(前文省略)

ここで、私は諸君にボイスカウトの「よさ」のいくつかを申し上げ、決意を一段と強くしていただきたいと思います。



●自然の中でいろいろ訓練などができる

これは素晴らしいよいスカウトの特長です。少年の頃は自然の中で育たなくては心も体もすばらしくなれないのです。いまの若者たちの欠点は、山・河・湖・野原・林・丘などの中で育たないことです。家の中で、テレビなどばかり見たりしては、真の知識も身につかず、強くたくましい「心身」ができあがらないです。

●原始的な生活が、心身発達の養いになるのです

清水をくんで枯れ木を集めて食事を作り、野に寝るなどは少年時代に経験したいものです。それが物質文明が進んで高度な世の中になるほど、もともとのそぼくな生活の味を知らないというと、うわすべりな人間になり勝ちです。

●自分の力で生きることは大切なことです

世間が開けることは、身体を動かさず、働くひとが作ってくれたもので、生き楽しむようになり、自分の力で生きることを忘れます。生活も楽しみも自分の力で作り出すような生活を、ときおり経験することは尊いことです。

●苦痛をがまんすることは必要なことです

世の中が進むと、苦痛をがまんするなど必要がうすくなります。だから、不便な生活の味をかみしめること。一歩一歩自分の足で歩き通すこと。つらさに耐え、なにを教えてくれるか自分でかみしめることです。

●きまりを守ることを身につけることです

きゅうくつなことだと思うかも知れませんが、きまりを守るところに自由があるのです。少年のころからこの訓練を身につけましょう。

●ひとのお役にたち、ひとの幸いになることをしたいものです

少年のころから、日常の訓練や生活の中にこのことを身につけたいものです。ひとの幸いに役立つことは、実は自分の幸いなのです。ひとにつくせない人は、自分の幸いが少ないのであります。

以上スカウト諸君は、このよさを知っているはずです。「よさ」を味わい身につけるのがスカウトの名誉です。

【「この道をゆく～今宮千勝先生伝～」より】



◆心に残るスカウトのお話②

ナイアガラの氷事件

何年か前、私がカナダにいたとき、あそるべき出来事が、ナイアガラの滝でおこりました。ま冬のことでした。1人の男と、そのあくさんと、17才になる少年の3人が、橋をわたっていました。その橋は、流れの早い川にかかるて、氷がはって出来た橋でした。とつぜん、めりめりと音がして、氷の橋は一部分こわれたのです。男の人とそのあくさんとは、もとの氷から、われて流れ去りつつある、ういている氷のひときれの上にのりうつったのですが、少年は、それとはべつの氷の上にのりました。

まわり一面を見ると、水はほかのういていた氷の上をながれ、氷と氷とはたがいにこすりあい、ぶつかりあって、とてもよくことなんかできません。また、のりうつれるようなボートも、そこらに一つもなかったのです。もうただ、ながれのままにまかすほかはありません。そのながれは、ここでは、ゆっくりながれ、よどんでいますが、だんだんあかまいなく、かれらを下流1マイルかなたの、おそろしい急流にはこんでゆくのでありました。

このきけんなりさまを、川岸で見ていた人々または、見に来る者がたくさんあつまつくるけれども、1人として、たすけようとして、なんらかの手をうつ人はないようでした。この川すじは、二つの橋の下をとある。それは、急流にかかるすぐ手前のところにかけられているのです。

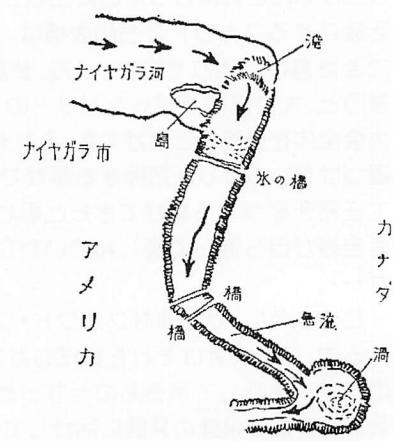
1時間ほど、このきのどくな人々は、ういた氷とともにながされて、この地点までやってきました。橋の上では、

人々がロープをかまえ(橋は水面まで160フィートの高さにあった)それをたらして、流されている人たちの、道すじにぶらさげました。

そこまで来ると、少年の方は、ロープをつかまえるかまえをし、よろこんで自分のからだを上方にひきあげる手さばきをしました。しかし、ある高さまでのぼっていつたとき、この気のどくな少年は、もうこの上のほる力がなくなってしまい、とうとう見えなくなってしまったのです。

べつの氷の上にいた男の方は、ロープをつかみ、気をうしなっていたあくさんのからだをくくったのです。そこで、とにかくかの女

はたすかるようでした。ところが、ながれは、かれらをあしながらした。この男の両手は、かじかんでいたため、ロープのむすび方に失敗してしまいましたので、ロープはこの人の手からすべり、2秒の後には、かれとあくさんの2人とも、も(→下段へ)



氷事件の現場を示したスケッチ地図

ベンチャープログラム研究会

★ 県進歩委員会 ★

シニアースカウト課程からベンチャースカウト課程に完全に移行して1年になり、茨城県連のベンチャー富士スカウトも10名(平成12年9月現在)になりました。

しかし、輩出者は一部の団に偏っているため、進歩委員会としては県下全域のベンチャー隊指導者を対象にベンチャープロジェクトの研究会を行いましたので報告します。

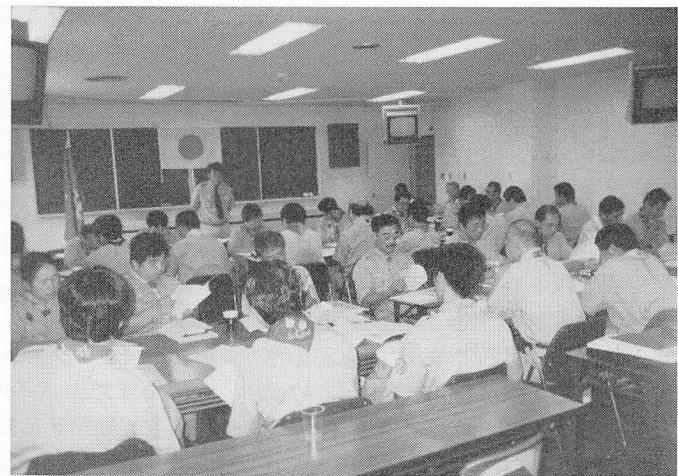
- 日時 平成12年9月10日(日)10時~16時
- 場所 県立青少年会館中研修室
- 参加者 ベンチャー隊指導者 35名
- スタッフ 県進歩委員会、県コミグループ
- プログラム
 - ① V S の進歩における方向付けについて
 - ② V S 課程における富士スカウト育成の事例発表
 - ③ V S 隊運営についての諸問題について
 - ④ V S 活動と宗教について

今回のプログラム研究会の目的は、スカウトを「富士」に進級させることであり、それに対しての実践的内容にて研究会を行いました。

課題①については、吉川県副コミッショナーの担当により行われ、参加者が6グループに分かれて、グループごとの「ニーズ」を発表し、指導者が「ニーズ」をいかにフォローするかによって計画が進められるか理解してもらいました。

課題②については、日立第1団(日立第1団はベンチャー課程になってから富士スカウトを平成10年度に2名、平成11年度に1名誕生させています)の石本隊長に富士スカウト育成の事例発表をしていただき、スカウトの進級意欲をどのようにフォローするか、スカウト運動が一貫性である以上、カブスカウト年代、ボーイスカウト年代に「班(組)制度」「進歩制度」が正しく行われていなければ、富士スカウトの育成は成立しないことが説明されました。

課題③については、北川進歩委員長の進行により、津久井県コミッショナー、吉川県副コミッショナーの助言を得て、グループごとに出来られたベンチャー活動を実施す



↑ 課題①のグループ討議の様子

る際に直面する諸課題について話し合いました。

課題④については、下館第3団の相馬順敬団委員長(日連宗教関係代表者会議構成員、浄土真宗本願寺派光徳寺住職)の講義により、今回の研究会の最重要的セッションが行われ、ベーデン・パウエル卿の考えられていたスカウト運動、信仰に対する指導者の「心構え」、人生における「信仰心」の重要性を解りやすく説明いただきました。

勉強会の終了後、グループごとに住所を交換する指導者もあり、富士スカウトの育成を各指導者が誓い合い、今後のベンチャー活動の前進に向けて散会しました。

【参加者】

石本正樹(日立1)、高橋輝明(日立5)、平山貴靖(日立7)、小塙謙一・石川和重(日立8)、滝洋一(北茨城1)、小池敦(常陸太田1)矢作博史(水戸1)、飯島寧夫・小鹿拓良(水戸2)、前田英樹・竹内由比子(水戸4)、大久保洋二・園部允明・柏春樹(水戸6)、田中俊英・荒川友勝(水戸8)、郡司輝明(茨城1)、宮田俊晴(結城1)、宮本忠夫(下館3)、箕輪勝市(石岡2)、鈴木常夫(神栖1)、戸舘善和(牛久2)、斎藤勉(牛久4)、石井利明(阿見1)、成毛健一(取手2)、阿部誠(守谷1)、鈴木卓・鈴木健介(藤代2)、上村義正・高橋正一(龍ヶ崎2)、小倉宏明(三和1)、関一宏(境1)、飯塚恭孝・武田一裕(水海道1)



(前ページより続く)

のすごくうずまく急流のそこにすいこまれて、くるしみをおわったのでありました。

カナダのスカウターの人は、ちょうどこの事件のすぐあと、汽車にのってこの地につきました。そして、乗客の人たちがこの事件をしゃべっているのをきいたと、私にかかりました。乗客たちは、この人がスカウト関係の人であることを知らないので、ある1人はこう言ったそうです。「ね工。もし、1人でもボーイスカウトがそのばにいたら、なんとかよいかんがえを出して、気のどくなこの人たちを、たすけただろうなア。」と。

これによつても、世の人々が、スカウトたちにのぞみを

かけていることがわかりますね。このきたいにそう、ただ一つのみちは、「そなえよ、つねに」であります。

事件のあとで、りこうになるのは、だれにもできます。けれども、ふたたび、こんなことがあこったら、いったい、どんなことができるだろうかと、いうことを考えておくことは、たいへん、やくだつことであるし、また、きょうみ(興味)ふかいことでもあります。しかも、君たちが、その場にいて、それを見ていたらどんなことをするかを、かんがえてここに、この事件の現場を示したスケッチ地図をのせておきました。

【ウルフカブス・ハンドブックより】

★DISTRICT REPORT ★DISTRICT REPORT

★ HELLO IB 地区だより

このコーナー「ハロー、アイビー」は、各地区的通信員(地区記者)等からの情報で構成しています。地区も団も隊も、スカウト活動すべてが取材の対象だよ。

★from DISTRICT PRESS ☆★from DISTRICT PRESS ☆

7 第8回 第7地区キャンポリー

平成12年8月25日(金)～27日(日)に第8回7地区キャンポリーを栃木県県民の森キャンプ場で行いました。大自然に囲まれた当キャンプ場はとても静かなところです。夜は渓流のせせらぎを聞きながら、時がゆっくり過ぎてゆくとても心が和む場所です。

第7地区(岩井、境、三和、総和、水海道)のビーバースカウトからベンチャースカウト、そして団委員・指導者の総勢150名の大キャンプ! 各隊に分かれさまざまな活動が繰り広げられました。

ビーバー/カブ隊は、沢遊び・ハイキ

ング・記念キーホルダーの工作などで楽しみました。沢遊びでは、海水パンツに着替え冷たい水にも負けず大はしゃぎ。

ボーイ/ベンチャー隊は、ミツモチ山山頂までのハイキングや高原での班旗立て競争をしました。ハイキングでは、我が道を行く班やひたすら直進する班などさまざまでしたが、各班とも無事山頂にたどり着きました。

2日の夜は、全員参加の大キャンプファイヤーで多いに盛り上がり、地区内の友情をより一層深めることができました。 (藤田)



3 第1回 第3地区ラリー (スカウトラリー)

第3地区では、10月29日(日)に第1回の「地区ラリー」を実施します。

これは、地区内のボーイスカウト・ガールスカウトの交流と、地区の発展、スカウトの活動の充実を目指してあり、更には、平成14年度からの学校週5日制の導入のために策定された「全国子供プラン」の方針にのっとって開催されるものです。

また会場を、団がまだ組織されていない下妻市で開催することにより、下妻市民にスカウト運動への理解を深めてもらうと共に

に発団への足がかりとしたいと考えています。

名 称 第1回地区ラリー

(一般向き:スカウトラリー)

テマ 「スカウトと遊ぼう! in砂沼」

期 日 平成12年10月29日(日)午前9時～

(雨天の場合は中止です)

会 場 下妻市砂沼公園内 觀桜苑(かんあうえん)

参加者 ①3地区スカウト及び指導者

②地区内の小学生及びその保護者等



(宮田)



第21回 アジア太平洋ジャンボリー

第21回アジア太平洋(第10回韓国)ジャンボリーに、茨城県から8名のスカウトと指導者1名が参加しました。会場となったソラク山は非常に美しく、東には眼下に日本海(韓国では東海)が望める所です。

プログラム活動の他に、フレンドシップ・ナイトで日本派遣隊は『よさこいソーラン』を披露して喝采を浴びました。このパフォーマンスの成功には、

茨城県のスカウトが大きな貢献をしています。さらに、第2地区と姉妹提携をしているソウル南部連盟ソンバ地区のサイトに招待され、大歓迎されました。

これが、世界平和への第一歩であり、国際協力への足がかりであること信じて疑いません。



↑製作過程のスナップ
「型作り」から「色塗り」まで

5 地区ベンチャー 手作りカヌープロジェクト

土浦第7団ベンチャー隊(小柳隊長)の呼びかけにより5地区ベンチャーによる「カヌー製作(1万円カヌー)プロジェクト」(指導:江戸崎1菊池BS隊長、土浦2加藤VS隊長、阿見1

村田VS副長他)が7月後半より8月末の進水式を目標に、進められてきました。このカヌーはベニヤ板を張り合わせてで

きており、軽さと浮力に優れています。進水式は、諸事情により遅れてい

ますが、5地区きってのカヌーの達人(阿見1中島RS隊長&茎崎1金井VS隊長)による、水漏れ&バランス試験も終わり、後は進水式を待つのみとなりました。1号艇の製作コストとバランスの更なる改善を目標に、プロジェクトチームは2号艇の製作計画に入りました。

夢は、各地区ベンチャーで同じカヌーを作成して、地区対抗カヌーレースを行うことです。他地区的ベンチャーの皆さん、カヌーを作って一緒にレースをしませんか? (菊池)



一緒に「あたのしみカード」公開大抽選会のステージでお手伝いして元気に愛嬌を振りまくなど、一日をみんなで楽しみました。

(小林)

1 地域との協調・日立多賀地区 第27回よかつペマツリ

ひたち多賀「よかつペマツリ」が9月9日に27回目を迎えて開催されました。まつりは、当初から「参加するあなたが主役」を合言葉に地道な努力の成果を重ねて、10年前には既に一日の祭りの人出では県内トップクラスと言われた規模に成長した楽しい祭になっています。

多賀近隣のボーイスカウト日立1団・5団・6団・7団は、バザー出店を中心に関わってから参加して、特に日立6

団からはまつりスタッフを出す等、地域との協調と交流に当たってあります。

ビーバーからボーイのスカウトは、今年もまつりのスタートを告げる恒例の500名パレードに参加して、ベンチャーを加えた指導者はパレードの交通指導を担当して事故防止に当たっています。

又、日立1団・5団・6団のカブスカウト代表は、ガールスカウトの友達と

★編集部からのお知らせ

●来るなら来い (くるこい)

チャレンジャー募集!!

あの伝説の「くるこい」が帰ってくる。そこで編集部では、それにチャレンジする男女2名のベンチャースカウトを募集している。最初のチャレンジは11月25-26日の1

泊の那珂川でのカヌーツーリング。詳しくは県連ホームページ「WEBスカウティング茨城」を。応募をまつてあるよ。

●特集 「冬キャンプのすすめ」

次号では「冬キャンプ」を特集します。そこで、みんなの隊の「これは!」っていうキャンプを紹介してほしい。400字程度の紹介

文と写真を添えて県連SC係へ送ってあくろ。11/30〆切だよ。

◆記事・原稿・答の送り先

〒310-0034 水戸市緑町1-1-18

茨城県立青少年会館内

ボーイスカウト茨城県連盟S C係

E-mail : bs18raki@d2.dion.ne.jp

4

県・地区コミッショナーと 地区役員との懇談会

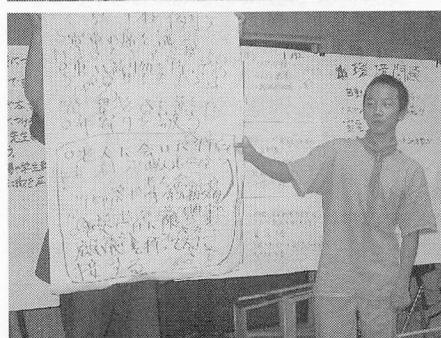
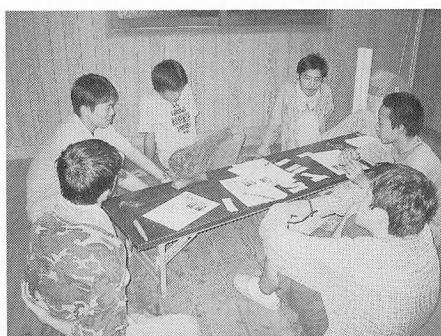
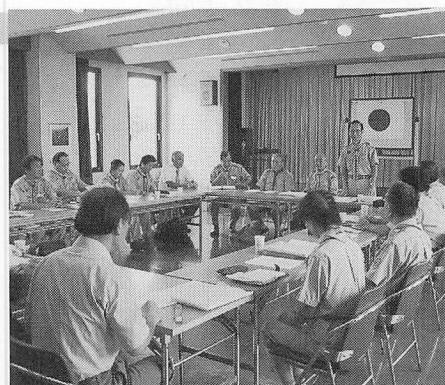
平成12年9月17日(日)、千代田中央公民館において、地区コミッショナー会議と第四地区役員との懇談会が開催されました。

懇談会では、創立50周年記念行事、学校週5日制に向けての対応、組織拡張への取り組み、スカウト教育面での県連盟への要望等々、情報の提供や質疑応答があり、更に女子の加入に伴う、

進歩制度・班制度、プログラム運営等が話し合われました。

津久井県コミッショナーから四地区役員に対し、お礼の言葉とコミッショナーとして指導者の方々に、より充実したサービスができるよう努力をしていきたいという言葉で締めくくられ、和やかな中で閉会しました。

(掛川)

**5**

第5地区 スカウトフォーラム

9月23日～24日の1泊2日で5地区VSスカウト総勢13名の参加によるスカウトフォーラムを地区野営行事委員会の主催の元、茎崎六斗こもれびの森にて実施しました。

当日は地元の環境を見直し、初めて会う仲間達との親睦を深めようと、まずは牛久沼でつり大会。まずまずの釣果と仲間同士打ち解けたところで本格的なフォーラムの実施です。

今年は『世界の仲間と共に』～新世紀 探し出そう 僕の私の“できること”～をテーマに自分達と日頃接点の少ない世界的な諸問題に対し、身近な取組みとして何ができるかを話し合いました。KJ法を活用した社会問題の洗い出し、グループピングの後、より

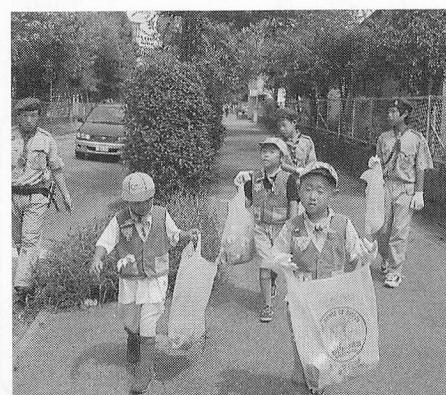
関心の高い問題の選択。そして身近なレベルで取り組み可能な解決策の考察と段階を経て問題を引き付ける取組みをしました。選択されたテーマとしては「環境問題」「麻薬問題」「高齢化問題」の3点。今後はこれら問題への関心を高め少しだけでもできることを実施しようと決意を新たにしました。

はじめて取り組む問題に対して、真剣に考える姿が印象的でしたが、今後はこうした取組みに対する行動的具体化やプロジェクトとしての取組み等、指導者としての課題も明確になりました。当地区では今後スカウトだけでなく指導者間の連携も密にするこことを確認して解散しました。(金井)



平成12年度 「スカウトの日」実施報告

今年のスカウトの日(9月15日)は、台風14号の影響で雨が降ったり止んだりの天候の中、39団2,140名の参加により「缶トリー大作戦」や「環境を大切にする活動」等のプログラムが県内各地で展開されました。右表は9月19日の集計結果です。(事)



地区	参加団	参加数	カン	環境	敬老	独自	缶回収数	ペット回収
1	5	189	5	0	0	0	1,273	63
2	6	372	6	6	0	6	305	35
3	3	55	3	0	0	0	1,368	300
4	6	441	6	1	0	2	681	84
5	6	445	6	1	0	0	4,244	299
6	8	470	8	1	1	0	2,478	691
7	5	168	5	1	1	3	1,418	301
計	39	2,140	39	10	2	11	11,950	1,713





第7回 第2地区キャンポリー

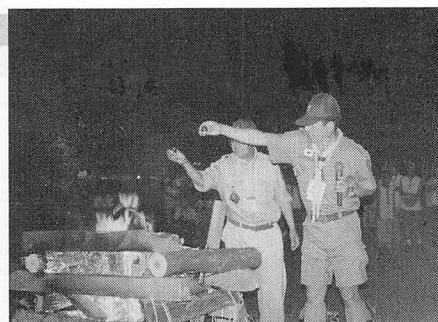
第7回第2地区キャンポリーは「7DC」と銘打ち8月5日～9日の4泊5日を涸沼自然公園にて、茨城町の協力を得て、大成功の開催となった。これに来日中の台湾・韓国の中高生数名が、奉仕と体験キャンプをした。メントサイトでは、友情交流で楽しく歓声をあげていた。

7DCは、取材の報道各社が関心の、エコキャンプ、自然環境保護し癒しゆく大切さを学び、スカウトの環境プロの事前課題の参加と展示で意識高揚、リサイクル資材活用の「いかだ」つくりや、立ちかまど、火あこし、真水つくり、真剣に取り組んでいた。特にパイオニア章取得のロープワークには、必死になって挑戦し、苦戦しながらも汗と日焼けの顔が誇らしげに見える。

ビーバー・カブスカウトデーに参加したビーバー・カブスカウトは、高い丘の草原でのプログラムに勇んで挑

戦、暑さに負けずに一生懸命リーダーと共に飛び回っていた。ナイフを上手に使いこなし、競技に加わり快心の喜びが伝わる。涸沼キッチンでは、にわとり、カツオの丸ごと体験料理し、見事な先輩スカウトの味付けに大満足。

最高のキャンプ、それは大営火だ。ローバー、ベンチャーガが企画し進行した。両国コミッショナーが、前回の交流の火種をカブセルより投入し大拍手の中よいよ炎は燃えさかり、友情が時には激闘ゲームに変わり、大熱戦の気勢が湖畔に響き渡り、夜空に火の



粉が舞った。歌が終わり、再会を期し全員が見守る中、営火の火種をカブセルに納め健闘を誓った。

多くの人々の真心の奉仕・ご協力に感謝し、7DCアワードを手にしたスカウトと指導者の努力を称え、参加団の弥栄を声高らかに叫ぶ。（清水）



第10回カブラリー・第1回ビーバーラリー「僕らの環境プロジェクト」 エコ活動実践発表会及び表彰式

去る5月28日(日)の県連年次総会の終了後に、同会場において、昨年10月に笠間芸術の森公園で開催された「第10回カブラリー・第1回ビーバーラリー」の事前プログラムとして各団カブスカウト隊が取り組み、それをまとめた「僕らの環境プロジェクト～スカウトが地球を救う55の方法～」の入賞隊の表彰と優秀プロジェクトの発表が行われました。

(事)



◆優秀賞（連盟長賞）

●きれいな水賞

- ・岩井第1団
- ・土浦第6団
- ・日立第1団

●忍法再生の術賞

- ・牛久第4団
- ・那珂第3団
- ・日立第5団

●大切な自然賞

- ・三和第1団
- ・水戸第1団
- ・ひたちなか第1団

●省エネルギー賞

- ・龍ヶ崎第1団
- ・北茨城第1団

◆努力賞（理事長賞）

●きれいな水賞

- ・取手第3団
- ・水海道第1団
- ・常陸太田第2団
- ・つくば第1団
- ・神栖第1団
- ・下館第3団

●忍法再生の術賞

- ・土浦第3団
- ・取手第2団
- ・土浦第7団

- ・江戸崎第1団
- ・茎崎第1団
- ・水戸第6団
- ・那珂第3団
- ・千代田第1団
- ・阿見第1団
- ・牛久第1団

●大切な自然賞

- ・利根第1団
- ・取手第1団
- ・藤代第2団
- ・龍ヶ崎第2団
- ・日立第8団
- ・水戸第8団
- ・水戸第4団
- ・那珂第3団

●省エネルギー賞

- ・龍ヶ崎第1団
- ・土浦第7団
- ・日立第7団

東西南北かわら版

夏季キャンプ特集



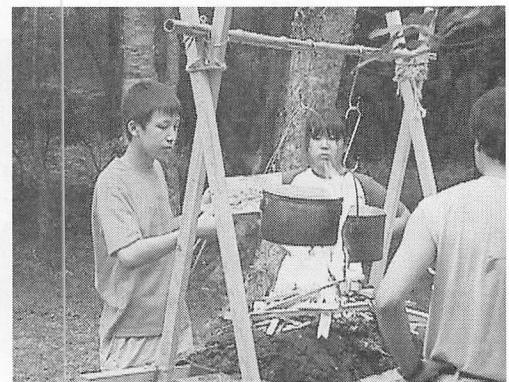
●阿見第1回ビーバー隊

阿見第1回ビーバー隊では、8月25日～27日に団のキャンプで、栃木県茂木の大瀬キャンプ場に行きました。ビーバー隊は、肝試しや花火、鎌倉山へのハイキング、楽器を作ったりキャンプファイアをして楽しく過ごしました。肝試しではボーイ隊のリーダーの超リアルな扮装にビビリ、ハイキングではきれいな景色にうっとりし、キャンプファイアはリーダーたちのおもしろい出し物に乗りまくりました。帰りは水戸の森林公园でお昼ご飯とアスレチックをして帰りました。このキャンプでは1つ不思議なことがありました。1晩寝るとペットボトルで作った虫かごの中のカブトムシがふえているのです。どうして？？？(写真は鎌倉山から撮ったものです。後ろに流れるのは那珂川です。)

●結城第1回ボーイ隊

平成12年8月24日(木)～27日(日)に栃木県八方ヶ原キャンプ場において夏季キャンプを実施した。ここは、いまどき珍しい何にもないキャンプ場である。温水シャワーなどあるわけも無く、トイレは汲み取り(でもきちんと管理されている)、水道があるだけというまさに「ボーイスカウトご用達」のキャンプ場である。

今回のボーイ隊キャンプでは、長期キャンプ未経験の新入隊員が13名(そのうち女子スカウト6名)も参加し、キャンプ場がそのような具合では、そういう問題が発生するだろうと予想された。ところがふたを開けてみると、ホームシックにかかったり、体調を崩すのは男子スカウトばかりで、女子スカウトは生き生きと野外活動を行なっていた。また、苦手だった歌も、大きな声で歌えるようになり、女子スカウトの加入で男女がそれぞれよい刺激が得られたようだ。女子スカウトたちははやくも大阪の13NJに行くと言い出している……



●つくば第1回カブ隊

大勢のスカウトたちと過ごした那須甲子少年自然の家の3日間のキャンプ

全員集合の写真、文集をひもとくと…

茶臼山でのこだま

背丈ほどある熊笹の中を木につかまりながら歩いた、道なき道の沢下り

街灯のない森の夜道、満天の星、星の話

自然の中で泣いたり、笑ったり

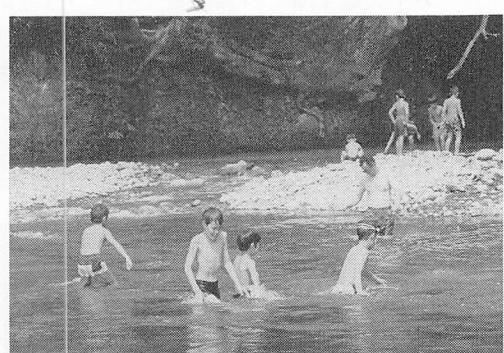
共に過ごした2泊3日の感動的なキャンプの思い出は、きっと心に深く残るでしょう

スカウトたちと味わった感動がさらなる活動の糧となる



●神栖第1回カブ隊

神栖第1回カブ隊は、8月25日から27日まで、常陸太田市の茨城県立西山研修所で、団内各隊と合同の夏季キャンプを実施しました。本年はビーバー隊が発隊5年経過して、初めての合同キャンプになり、プログラムも各隊共通と独自の2通りで進行しました。カブ隊独自のプログラムは、テント設営訓練、オリエンテーリング、川遊び、カブレストラン等があり、スカウトのお楽しみは何と言っても川遊びでした。2日目の朝、里川の春友彫刻の森公園に行き、休憩所設置後、準備体操、リーダーの実演入り注意事項確認の後、スカウト全員は恐る恐る川の中に入り、リーダーも岸と川の中の両方で監視しました。急流では滑り台状態で、淀みでは流れに任せて川遊びを1日中楽しみました。金鳥リキッドの宣伝によく似たカッパの川流れ状態で仰向けになりながら気持ちよく川下りを繰り返していたのは、スカウトではなく隊長であったとの証言もあり、大人も楽しめました。

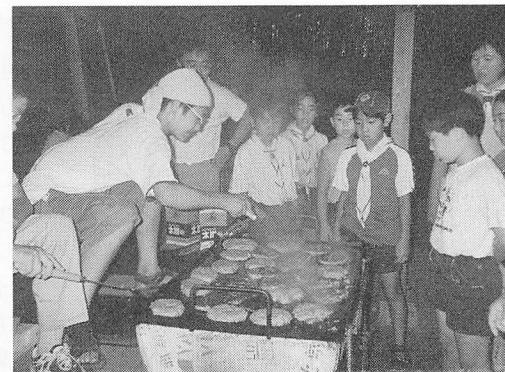


●石岡第2団カブ隊

我々2団のキャンプ、今年は石岡の名所、風土記の丘の隣、波付岩キャンプ場で行った。大昔、この地まで波が寄せてきて、ここの大きな岩で波が止まったというところ。

2泊3日のキャンプでは、林の中のたくさんの木を利用してロープ結びや組ごと分担のあいしい食事を作り、そして夕方から近くのプールに汗を流しにと、楽しい1日目。2日目は、追跡ハイク、また保護者の方々との交流昼食会。夜は営火、赤々と燃える炎の回りでの楽しいひととき。最終日は工作の飛行機作りと凧作り。それぞれ個性豊かな作品が出来上がりました。皆での飛ばし競争では、誰が一番飛んだのかな?

この2日間でカブ隊のスカウト達はひとまわり大きくなりました。



●日立第6団

7月22日

日立6団では5NV参加スカウト3名の成功を期する団を挙げての激励壮行会を行いました。

8月3日には、当団クラブ局と久住高原基地との間で3名の無線交信にも成功し、予定全プログラム成果を得て帰ってきました。彼らの今後の活躍が楽しみです。

写真は、特製アマチュア無線「日立6団AMC記念QSLカード」です。

●取手第2団ボーイ隊

今回の夏季キャンプは、取手2団20周年記念の行事の一部として団キャンプという形式をとりました。

場所は、諫訪湖で有名な長野県茅野市、2泊3日のキャンプのメインイベント、ハイキング! 霧ヶ峰八島が原湿原方面、鷺が峰から八島が原を経由して観音沢を下るコース。シーズンでもあまりハイカーが踏み込まない、ちょっと神秘的なコース。高低差は、さほど感じられないが、道が崖っぷちで狭く、斜面は、滑落、倒木など危険がいっぱい……の様に見える楽しいコースでした。スカウトたちは、ヘルメット、ザイル、手袋を着用、危険な場所へ誘う霧囲気、沢を渡る倒木の一本橋……くうう～楽しそう!と、思ってたのはリーダーと、班長、次長。班員たちは結構ビビッてましたねえ!

そんなこんなで、無事、事故もなく帰還したのですが。途中沢のほとりで休憩をとっているとイワナがライズしており スカウト達が喜んでたのと黒曜石を拾って帰れた(欠片ですけど!)のが良かったかな!



●土浦第7団カブ隊

7月28日~30日と2泊3日の移動キャンプを行いました。

1日目は、福島県檜枝岐村沼山峠を出発し、大江湿原の満開の日光キヌゲの花が、カブ隊を歓迎しているかのようす素晴らしかった。また、尾瀬沼も美しい水面をうつしていました。

カブ隊だから無理をしないように気をつけて、木道の休憩所や各所にある休憩小屋に休みました。その日は湯元山荘で宿泊し、ハイキングで疲れた体を温泉に入りました。



2日目は、朝早く5時に出発、みんな思っていたよりは元気。竜宮小屋の辺りはもう県境、群馬県に入り尾瀬ヶ原湿原は花から山に変わり、東北の山越ヶ岳と関東の山至仏山が美しい姿を見せっていました。山をバックに写真を撮りながらハイキング。山の鼻で朝食休憩し、あとは鳩待峠まで40分。みんな元気で鳩待峠まで頑張りました。ここからバスで第2キャンプ場着。皇海山キャンプ場で過ごし、夜はファイヤーを囲みスタンツのスタンツの一夜を楽しみました。

3日目はイカダを作り川で楽しむ。その後温水プールで水泳訓練、ちょっと観光見学。無事日程を終り、午後2時キャンプ場ともお別れし、土浦に夜7時40分元気で到着いたしました。



●取手第1回カブ隊

今回は、新入隊員が多く、いつもより細部にわたり、事前にパッキングの練習、大きなリュックの背負い方、食事作りなどを練習していきました。が、目的地に着いてからが大変でした。一つのものを出し入れするとごちゃごちゃ。初めてのキャンプでうれしいのと、緊張して興奮気味のスカウトも見受けられました。

しかし、疲れていても、家と違って食事の準備をしないと食べられません。事前練習の成果でしょう、野菜一つでも真剣に切り、とてもうまくできました。

翌日、峠でのスケッチそしてハイキング、沢遊び。自然の中での珍しい植物を探しながら、「キャンプだホイ！」の歌と共に歩きました。自然の中でのおにぎりのあいしかったこと。しっかりと食べました。夜、楽しみにしていたキャンプファイヤー、歌・踊りに、炎を囲んでのヤーン。初めてのスカウトにとっては思い出に残る楽しいキャンプでした。

●土浦第7回ボーイ隊

今年のキャンプは2000年を祝い「日本一を目指そう」と3年前から計画されたキャンプでした。10年度は日本ジャンボリーと歩き通し、11年度は日光戦場ヶ原キャンプ場で男体山登山を行い、足腰には十分自信をつけてきました。そして12年度は、日本一の富士山に登ると隊員達が計画してきました。富士登山は夜通しの登山のこと、まだ経験がないので、真壁町の7回研修所から筑波山登山を行いました。筑波山も道が悪いので、夜道は苦労しました。

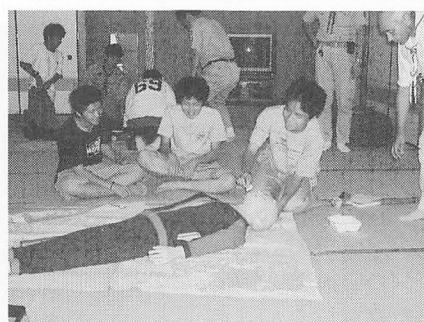
8月4日18時、富士山5合目から登りました。6合目辺りから登山者が混んできました。ボーイ隊も疲れているので休憩しながら登りました。7合目辺りは道が狭くなるため、ものすごい混雑で歩くことさえできない程の混雑でした。あと少しで8合目というのに登れなくて、5日4時までになんとか本8合目に着こうと頑張りました。8合目の富士屋ホテルで夜明けを待ち、念願の「ご来光に祈る」ことができました。

6日は、青木ヶ原樹海探検と風穴道見学など探し、土浦へ帰りました。



▲牛久第2回発

この度、日連から正式に加盟承認されました。10月28日に発団式を実施します。よろしくお願ひします。



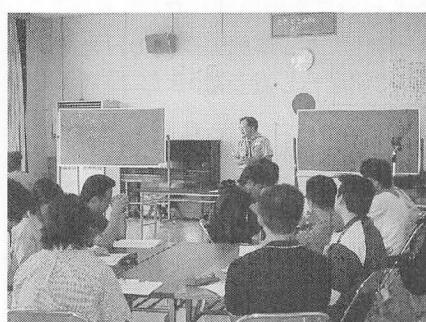
▲県連健康安全委員会発

7月15-16日で、スカウト救急法講習会が開催されました。心肺蘇生法等しっかりじっくり学ました。



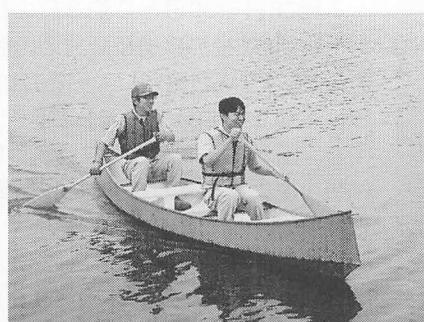
▲取手第2回発

夏季キャンプで、信州の霧ヶ峰にある鶯ヶ峰を完全制覇してきました。やつたぞ、あーっ!!



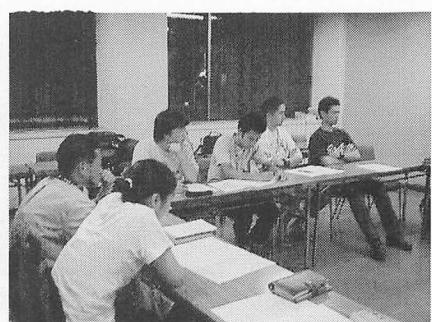
▲5地区指導者養成委員会発

10月1日、土浦青少年の家で第291回指導者講習会が開催されました。参加者は27名でした。



▲第5地区ベンチャー発

手作りカヌープロジェクトで作製したカヌーの進水式をベンチャーフォーラムで行いました。見事成功です。



▲県野営・行事委員会発

8月26-27日の両日、県立青少年会館において、県ローバーマートが開催されました。5-6地区ローバーが参加。

コミッショナー通信

県副コミッショナー 戸館 善敬

● 「スカウティング」ってなに？

スカウティングとは一口に言えば、青少年たちの活動のこと、創始者B-P卿が考案した、少年にとってはゲームですが、大人側からはゲームを通しての教育です。

スカウティングの目的は「公民教育」であり、すなわち
人格・健康・技能・奉仕
がスカウティングの四本柱となっています。

● 「スカウティングの方法」とは

ボーイスカウト隊長ハンドブックを見ると、

野外を教場にして、
ちかいとあきての実践に心掛け
班制度
進歩制度

とあります。日本連盟教育規定1-2にも、

「ボーイスカウト運動は、ちかいとあきての実践を基盤とし、ベーデン・パウエルの提唱する班制教育と各種の進歩制度と野外活動を、・・(中略)・・成人指導者の協力によってそれぞれに即し、しかも一貫したプログラムに基づいて教育することを基本方針とする。」と規定されています。

私たちは、ボーイスカウトの指導者として、大自然の中で活動し、ちかいとあきての実践に心がけていますが、さて班制度と進歩制度の活用についてはいかがでしょうか。

ある隊長は、

「スカウトが少ないし、また集会の出席者が少なく班の活動はできない。またスカウトは進歩に関して興味がない、キャンプの時だけは皆が参加してくれる。」と言っていました。このことをどのように思いますか？また、隊指導者の皆さん、心当たりがありませんか。

最近、県連進歩委員会で行ったボーイ隊のアンケートの結果、その現況がまとまりましたが、その中で

班の数	1班	18%
	2班	44%
グリンバー訓練を毎月実施している		44%
進級状況	初級	52%
	2級	38%
	1級	10%
	菊	0%

とありました。スカウトの数が少なく1～2班の隊はしかたないとしても、G B訓練や進級のパーセンテージが低いのに目につきました。

「スカウティングの原理や方法は知っています。」と答える隊長は多くいますが、さてこの原理と方法をどれくらい隊活動に取り入れているのでしょうか？

スカウト教育の方法は「班制度」と「進歩制度」の2大制度からなり、ともに重要な特長を持ち、欠くことのできない制度であるといわれています。

● 「初心忘るべからず」

この言葉は、ボーイスカウト隊長ハンドブックの第1編の最初に出てきます。

初心に返り、この「班制度」と「進歩制度」についてもう一度見直してみましょう。

● 「班制度」(パトロールシステム)

創始者B-P卿は

「いかなる場合でも、私は班制教育をすすめたい。パトロール(班)とは、恒久的な小人数のグループであって、どのパトロール(班)も、1人の責任を持った指導児によって受け持たれるものである。これが成功への第一歩になる」

と言っています。

隊指導者が、「班長の任務が何か」また「班長が任務を全うするための方法」について説明してありますか、また「班長のすべきことを隊指導者が奪っていないか」等ということから、班制度が展開できない責任を

「班長に指導力がない」

「班長の出席率が悪い」等

と班長になすりつけてはいないでしょうか？

できる、できないの問題ではなく、

「グループワークを経験することによって人格や能力を高めることができます」

これが班制度の目的です。ですから、まずはできなくてもよい、やらせることが大切ではないでしょうか。その結果スカウトに進歩があればスカウティングは成功したものといえます。隊指導者の役割は、スカウトが思う存分スカウティングを実施できるように環境を整えることではないでしょうか。例えスカウト数が少なくてても。

● 「進歩制度」(バッジシステム)

スカウティングは自発活動によるものであり、この自発活動の原動力は、興味があると云うことです。そこから、スカウトが自分自身で努力し、努力の結果進歩記章を胸につけることが出来ます。

進歩制度は、旅の一里塚です。どの程度旅が出来たか、自身ではかり知る里程表です。

進級しない者は旅をしない者で、旅をしない者はスカウトではないと言えるでしょう。

県連盟では、「進歩制度運用の手引き」を作成し配布しています。これを参考にして、団委員長・団委員・隊指導者それぞれの任務を再確認して戴きたいと思います。

青少年がスカウティング離れしてありますが、これについては、スカウティングの方法をきちんと取り入れて魅力あるプログラムを提供できるようにすることが、団・隊指導者全員の責任なのではないでしょうか。

★インフォメーション

●指導者講習会のお知らせ

今後の指導者講習会の日程をお知らせします。

10月22日	第1地区	高萩中央公民館
11月19日	第2地区	未定
11月19日	第6地区	未定
3月18日	第4地区	未定（以上9/30現在） ※詳しくは県連事務局にお問い合わせください。

●団運営研修所開催のお知らせ

団運営研修所関東第4期が下記の日程で開催されます。

期日 平成12年11月24日(金)～26日(日)
 場所 日本連盟 那須野営場
 ※詳しくは県連事務局にお問い合わせください。

●県内BSホームページ情報

【地区・他】

- ★3地区（結城第1回サイトにあります）
<http://member.nifty.ne.jp/BSYUUKI1DAN/web12.htm>
- ★7地区（水海道第1回サイトにあります）
http://www.hh.iij4u.or.jp/~yizuka/html/7area_info.htm
- ★OG E隊（たのしいロー／バー・リーダー集団です）
<http://www.oge-tai.com>

【団、新規開設】

- ★竜ヶ崎第2団
<http://r2bs.tripod.co.jp/>
- ★日立第6団
<http://www.hwst.net/~bshitachi6/#>

★SC茨城第21号 くいす 「まちがいさがし」



前回の「くいす」は、ちょっと難しかったみだいだね。なんと応募者がたった2人。さびしそう。そこで今月はずっとやさしくしてみたぞ。間違いは5つ。さあ、みんなのチャレンジ待ってるぜ。

前回の正解は右の6つ。でも⑤は印刷したらゴミみたくなってしまったんで今回は、それ抜きでも正解とします。

総和第2回カブ隊 針谷 裕大くん

取手②回ボーイ隊 堀江 亮くん

の2人が大正解で～す!! あめでとう!!

さて、今回の回答は、右の太い枠の方をコピーして（切ってはいかんぞ、切っては!!）官製はがきに貼って、赤鉛筆で間違っているところを○で囲んで、①所属団隊②住所③氏名④電話番号を書いて、下記宛に送ってください。正解者の中から抽選で5名に素晴らしい賞品をお送りします。（〆切平成12年12月1日）

〒310-0034 水戸市緑町1-1-18 県立青少年会館
ボイスカウト茨城県連盟事務局 SC21クイズ係

●前回の正解（間違いは6つ）

- ① 1 テントウムシの星
- ② 6 ターザンロープの右わきの雲
- ③ 7 クマの鼻先の葉っぱ
- ④ 8 川に浮かぶポットのラベル
- ⑤ 10 クーラーボックスのフタにかかる水しぶき
- ⑥ 13 もりの先のソーセージ

◆編集後記

どうもすみません。前の20号、せっかく新しい紙面になったのに間違えてしましました…。たくさんのご指摘を戴きありがとうございました。解らなかつた方は探してみてね。ほんと大きな間違いです。

この21号は夏のイベントの特集。みんなは、いろいろな所でキャンプなどして、さぞ楽しかったでしょうね。今回はその思い出を載せてみました。次号は冬スペシャル号です。お楽しみに!!

広報委員長

発行日 平成12年10月1日